

天皇、皇后両陛下の 優しさに触れ

市長 明智忠直



3月11日の大震災、津波、液状化、野菜の放射能汚染。旭市は、かつてない甚大な被害を受けてしまいました。海の色、空の色、花の色はいつもと変わらないのに、重い下向きな空気が続いた1か月——。そんなとき、信じられない感動の話が、県を通じ宮内庁から届きました。4月14日、天皇、皇后両陛下が旭市へお見舞いに来てくださるということでありました。東日本大震災の被災地訪問は初めてということで、想像もできないほどの喜び、感激であり、両陛下のご訪問を復興へ向かう希望の光としたい、そんな思いで宮内庁、千葉県、警察とともに綿密な打ち合わせを繰り返し、その日を迎えました。

穏やかな、満開の桜の中、両陛下を東総文化会館にお迎えしました。しばらく休憩の後、森田知事と共に被害状況を説明させていただきました。亡くなった方、被害にあった方の話をすると「恐ろしかったでしょう」「本当に大変でしたね」などたくさんの言葉をくださいました。知事が「今回の津波は1波、2波、3波と来

たようです」と説明すると「何波も来るとは、もう少し津波のことも研究しなくてはいいですね」とも話されました。昼食後、避難所となっている海上公民館を慰問された両陛下は「食事は?」「足りない物はないですか」「体は大丈夫ですか」「がんばってね」など、一人一人にひざについて話されました。皆さんにとって、かけがえのないひとときであったと思います。飯岡の被災地をバスで視察をした際、両陛下は一度八軒町(飯岡)でお降りになりました。亡くなった方や行方不明の方がいるという話をすると、即座に黙礼をしてくださいました。飯岡福祉センターの避難所でも、被災した方、さらにはボランティアや市職員にまで温かい励ましの言葉をくださいました。走る車の窓から右、左と沿道に手を振る両陛下の優しさ、国民を思う気持ちを肌で感じました。

両陛下のご訪問——。旭にとっての復興の光を、市民の皆さんと共に胸にともした、感動の一日でありました。